

ある日の教室(1)

学生の立場からでも
教員の立場からでも

教室にかかわる思い出のご投稿をお待ちします

吉田英生 (S53/1978卒)



本学工学部物理工学科の機械システム学コースで、2回生向けに「熱力学1」(前期)と「熱力学2」(後期)を長年、また3回生向けに「エネルギー変換工学」も数年担当したが、ずいぶん至らぬ授業をしてきたものだと(元)学生のみなさんに申し訳なく振り返ることがよくある。もちろん、そのときそのときで自分なりに努力してはきたが、反省点は数え切れない。

しかし、嬉しい思い出もある。6月ごろは鬱陶しい梅雨とともに授業が中だるみしやすい時期でもある。そんな6月にあってexcitingな世界的イベントがルマン24だ。2001年6月は、マツダがわが国で初めてしかもロータリーエンジンでルマンを制した1991年からちょうど10年後であったこともあり、授業中に優勝時のダイジェストビデオを放映してみた(以後、比較的最近までずっと続けていた)。そうしたら翌週の授業のあと、一人の学生が部屋にやってきて「父がマツダに勤めているので先週の授業のことを話したら、ロータリーエンジンの模型を近日中に送ってくれるとのことでした」と伝えてくれた。ほどなくして写真のような模型が届き、「子供が先生のロータリーエンジンの説明に感動したようで、何かお手伝い出来る事はないかと思い、ついつい口を出してしまいました」と添え状(別便のメール)



にあつた。ロータリーエンジンの構造は誤解されることが多い。この模型では灰色のローターと白色のエクセントリックシャフトはスリップしながら、ローターの運動が回転軸を回すのである。百聞は一見(一触)にしかず。この模型を回覧すると、学生はロータリーエンジンの構造を瞬時に理解する。

行き届かない授業ではあつたが、自分の思いが学生に伝わり、さらにその親御さんに伝わり、さらに教室に戻ってくるという、教師冥利に尽きる、名実ともに回り回るロータリーエンジンからの思いがけない贈り物であつた。

参考: <https://ja.wikipedia.org/wiki/ロータリーエンジン> にアニメーションがあります。